

【日本の大学】第95回—滋賀医科大学：地域に支えられ、貢献し、世界に羽ばたく

滋賀医科大学は、「一県一医大」構想の下、1974年に創立・開学した国立の医科大学である。滋賀県の県庁所在地大津市瀬田月輪町に本部がある。医学部の中には医学科と看護学科があり、医学系研究科の大学院と合わせて、約1100人の学生が学んでいる。



大学正門

優れた医療人を育成

理念として「地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく大学として、人々の健康、医療、福祉の向上と発展に寄与すること」を掲げ、それらを実現するために「3C」を推進するとしている。3Cとは、創造 (Creation)、挑戦 (Challenge)、貢献 (Contribution) であり、「優れた医療人の育成と新しい医学・看護学医療を『創造』し、優れた研究による人類社会・現代文明の課題解決へ『挑戦』し、医学・看護学・医療を通じた社会『貢献』をする」としている。

以下、滋賀医科大学のホームページなどから、大学の歩みと現況を見ていこう。



一般教養棟・総合研究棟

滋賀医科大学の創設準備室は1974年の2月に京都大学の中に設置され、開学準備が進められた。開学したのは同年10月1日、滋賀県守山市の仮校舎でスタートした。ドイツ語の1学科目が先行して始まった。翌年の1975年4月からは8講座（解剖学第一、生理学第一、生化学第一、病理学第一、微生物学、内科学第一、小児科学、外科学第一）、9学科目（哲学、社会学、人文地理学、物理学、化学、生物学、数学、英語、保健体育）を開設したため、8講座10学科目となった。

1976年には、附属病院創設準備室を設置するとともに、7講座（解剖学第二、薬理学、保健管理学、放射線基礎医学、内科学第二、外科学第二、産科学婦人科学）と1学科目（心理学）を開設したため、15講座11学科目となった。同年8月には、本校舎（大津市瀬田月輪町）が一部完成したため、仮校舎から移転している。

1977、1978年にも講座、学科目の開設が続き、計28講座11学科目となった。また、78年4月に医学部付属病院が設置され、15診療科が置かれた。（病院の診療開始は同10月）

その後、解剖センターの設置（1979年）、大学院医学研究科の設置（1981年）、医学情報センターの設置（1985年）など、組織の拡大や新設が続いた。医学部看護学科が設置されたのは1994年である。



医学部附属病院のヘリポート

2002年には、大きな組織再編が実施された。医学科の学科目を2大講座に統合し、生命科学講座（物理学、化学、生物学、数学、生命情報学）と医療文化学講座（哲学、心理学、歴史学、社会学、人文地理学、英語、独語）とした。内科学第一、第二、第三講座を内科学講座に、外科学第一、第二講座を外科学講座に統合するなど多くの講座を再編した。

同時期に、医学部附属動物実験施設を廃止したうえで、動物生命科学研究センターを設置した。この年には、MR 医学総合研究センター、生活習慣病予防センター、医療福祉教育研究センターも設置するなど、研究組織の拡充強化も図られた。

2005年には、基礎医学講座の再編を実施し、28講座としている。例えば、解剖学、生理学、生化学・放射線基礎医学講座などをそれぞれ統合している。現在、基礎医学講座は、生命科学講座（物理学、化学、生物学、数学）、医療文化学講座（哲学・倫理学、文化人類学、英語、心理学、独語）、解剖学講座（生体機能形態学、神経形態学）、生理学講座（統合臓器生理学、生体システム生理学）、生化学・分子生物学講座（分子生理化学、再生・修復医学、分子病態生化学）、病理学講座（人体病理学、微生物感染症学、疾患制御病態学）、社会医学講座（衛生学、法医学、公衆衛生学）の7講座となっている。

また、臨床医学講座については、内科学講座と外科学講座に分かれており、内科学講座には、循環器、呼吸器、消火器、血液、糖尿病内分泌・腎臓、脳神経の各内科のほか、小児科学講座、精神医学講座、皮膚科学講座を含んでいる。

外科学講座も、一般外科などのほか、整形外科学講座、脳神経外科学講座、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座、産科学婦人科学講座、泌尿器科学講座、眼科学講座など、それぞれ専門の講座に分かれている。



大学図書館

健康生活支援する看護

1994年に設置された看護学科では、豊かな人間性や、幅広い教養と倫理観に基づいた専門知識を身につけ、広く人々の健康生活を支援する看護を実践できる能力を養成している。また、看護専門職に対する社会的ニーズの変化を基盤に、高い看護実践能力の取得や看護研究能力の向上を目指した学士力をより強化することを目的とした科目も提供している。

カリキュラムは、教養科目と専門基礎科目を統合させ、有機的に関連付けられるように配置している。そのうえで、専門科目を、基礎となる段階、臨床看護・地域看護を学ぶ段階、実践能力を強化する段階の三階層に分けて修得し、特に実践的に「使う」能力の強化を図っている。医学科との合同講義や国際社会での看護活動のための科目の開講、基礎教育と臨床現場の統一化などを行っている。

第1学年から第2学年では、教養科目・専門基礎科目と並行して看護の基礎的な内容を学び、豊かな人間性と倫理的感受性を磨く。第2学年から第3学年にはその土台の基に専門看護を学んでいくことで、高い実践能力を養う。第4学年には臨地実習を経てすべての知識や技術を統合し発展させ、科学的思考力を持った看護職を育成するとともに、自ら積極的

に課題を発見し解決する能力や研究する態度など、専門職あるいは将来の研究者としての基礎的な研究手法などの素養についても育成していく。



看護スキルズラボ

保健師課程（選択制：30名）では時代や地域社会が求める保健活動を学習し、人々の健康で文化的な生活を営む権利を保障するために、保健師の社会的意義や活動の可能性を理解し、主体的な公衆衛生看護活動を行うため必要な能力を有し、地域社会及び地域住民を守ることができる保健師を養成する。

助産師課程（選択制：8名程度）では地域の特性を十分認識した助産活動を学習し、助産診断に基づく助産ケアの実践と分娩介助などの周産期医療において助産師に求められる能力を有するとともに、ウィメンズヘルスを理解し、健康支援の方法を修得した、地域に貢献できる助産師を養成する。

外国人留学生にもきめ細かく対応

外国人留学生に対しては、ホームページ上で、学生の区分、資格、各種手続き、必要な書類など、きめ細かく説明している。経費や奨学金などの支援制度についても開示している。

健康面や住居、保険、生活全般についても一括して示している。日本語教室も開講、判定テストや授業の習得状況に応じて、入門から上級クラスまでの所属クラスを決めており、留学生は原則的に全員参加となっている。また、外国人研究者や留学生の宿泊施設として、国際交流会館も設置している。国際交流協定を結んでいるのは、13か国の26大学・組織。外国人留学生数は9大学の33人である。(2023年5月現在)



国際交流会館

学生数は、学部生が926人(医学科686人、看護科240人)、大学院生206人(博士課程158人、修士課程48人)の計1132人である。教職員数は1418人であり、1教員当たりの学部学生数は2.4人となっている。(2023年5月現在)

大学では、学生に対する教育・研究環境の手厚さ(どれだけ充実した教育環境が与えられているか)を示す「教育リソース」の分野で、日本の大学の中で第8位(2023年調査、271大学中)であるとしている。

現在、学長は上本伸二氏である。京都大学医学部卒、同大学院医学研究科外科学講座研修医、同第2外科助手、同医学部附属病院臓器移植医療部助教授。三重大学医学部医学科第一外科教授、京都大学医学研究科肝胆膵・移植外科教授などをへて2020年4月から滋賀医科大学学長。医学博士。

日文：滝川 進
写真：滋賀医科大学 HP